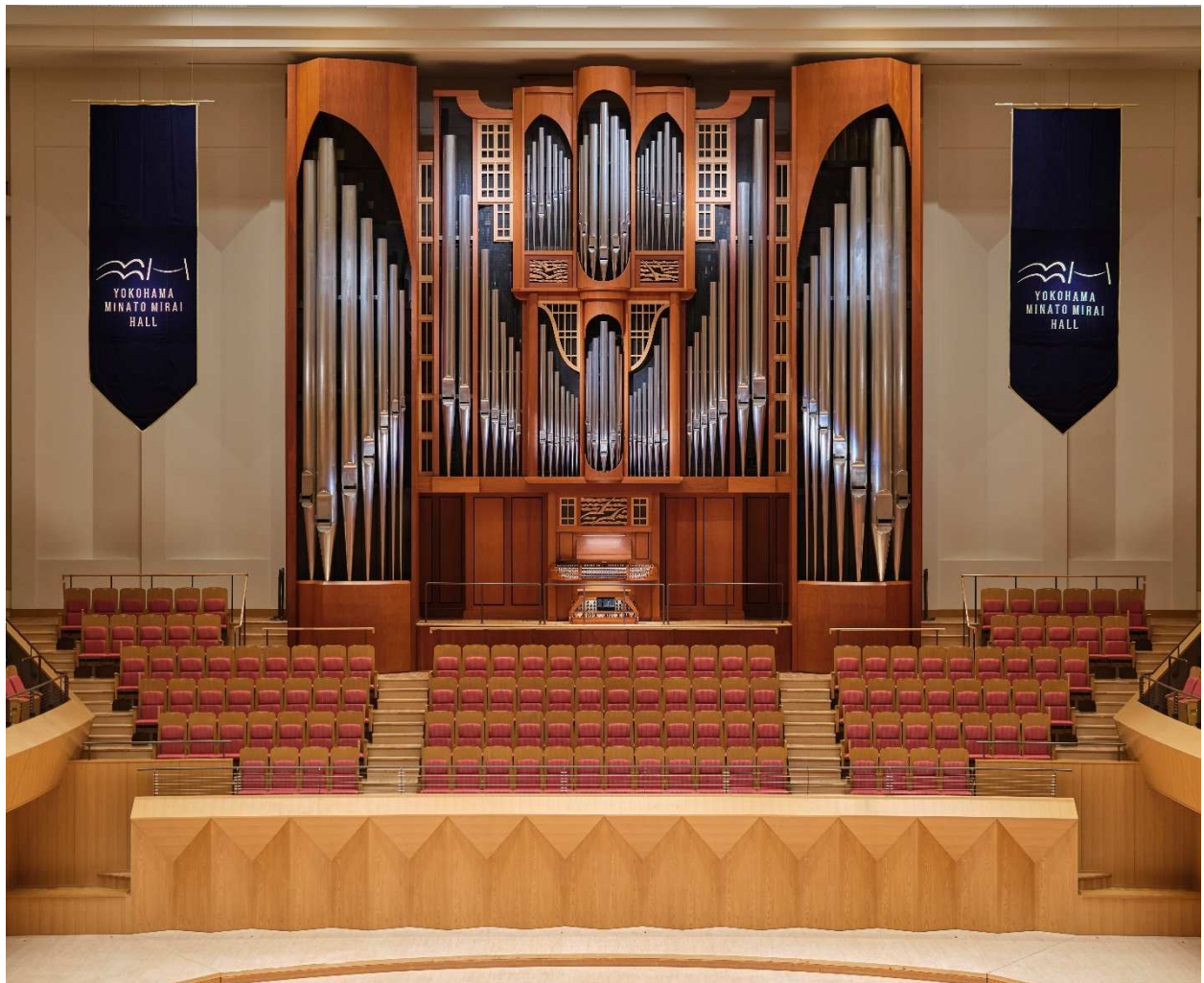




YOKOHAMA  
MINATO MIRAI  
HALL

横浜みなとみらいホール

# ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム 2023年度 第19期 インターン募集



©平舘平

1998年の開館以来、積極的にパイプオルガン事業を展開している横浜みなとみらいホールでは、ホールオルガニストをめざす方々に向けて「ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」を実施しています。このプログラムは、ホールオルガニストに必要な資質を習得するための、若いオルガニストを対象とした研修制度で、初代ホールオルガニスト三浦はつみの指導により2002年から実施してきました。

リニューアル・オープンを経て、2023年度、第2代ホールオルガニスト近藤 岳の指導による第19期インターンを募集いたします。

## ■研修プログラムの内容

### (1)オルガン公演・ワークショップなどの事業の企画運営に参加

主に夏休みに行う子ども向け事業およびオルガン普及・紹介に関わるプログラムの立案・運営に、ホールオルガニスト近藤 岳、スタッフとともに参加していただきます。

聴衆との接点を得られる事業の現場において演奏家としてだけでなく、コーディネーターやファシリテーターとしての役割を実際に体験、学ぶことができます。



「パイプオルガンを弾いてみよう！」  
参加者の演奏をサポートします。

### (2)オルガン保守について習得

コンサートホールに設置されているパイプオルガンを最良の状態に保つために、ホールスタッフ、調律師、ビルダーとのコミュニケーションを取りながら、常日頃楽器の状態を把握するなど、ホールオルガニストとして求められる役割を研修していきます。



「構造研修」  
パイプオルガン内部の構造を学びます。

### (3)楽器の構造について学習

調律補助やアニュアル・メンテナンスの場で、楽器の構造や調律方法についての理解を深めます。

### (4)オルガン利用者への操作説明方法を習得

限られた時間内でのレジストレーションをサポートするための知識や心構えを、実際の現場で研修し、国内や海外からの演奏家に対し、パイプオルガンの操作法や特徴を効果的に説明できるスキルを習得します。

### (5)オルガンやホールに関する広報活動への参画

ホールに関わるスタッフの一員として、オルガンのPRに関わる広報取材を受けたり、ブログ記事を発信していただいたりします。また、昼休みのコンサートや子ども向け事業でのMC、一般来場者に対するオルガンの紹介など、大勢を対象に話す訓練を行います。さらに、ラジオやテレビ、ホール SNS への写真・動画投稿など、メディアへの出演をお願いすることもあります。



「MC研修」  
講師の先生にレクチャーを受け  
実際にホールで話してみます。

### (6)公共ホールの運営について学習

公共施設としてのホールのあり方を学びます。またその視点に立ったオルガン活用を考えてもらうなど公共ホールの一員としての研修を行います。

### (7)ホールオルガニスト近藤 岳による研修

様々な作品演奏に取り組み、コンサートホールのオルガンならではの音楽づくりを学びます。

### (8)研修修了後の「オルガン・1ドルコンサート」に出演

2024年度の「オルガン・1ドルコンサート」で、インターンシップ・プログラム修了演奏会として演奏していただきます(5月の「オルガン・1ドルコンサート」への出演を予定)。

### (9)その他

オルガニストを必要とされる貸館利用者に対し、積極的に紹介いたします。

## ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム第 19 期研修内容(予定)

2022 年 12 月現在

ホールオルガニストは、自らがコンサート等で演奏することはもちろん、オルガン事業の企画立案に参加したり、お客様の前に立って楽器や作品についてわかりやすく説明したり、ホールのパイプオルガンの魅力を幅広く発信します。

また、常に「弾きこみ」を行うことで楽器を最良の状態に保つとともに、初めてこのオルガンを演奏するオルガニストがスムーズに演奏できるよう、フォローも行います。

研修分野	研修項目	日程・時期	内容
オリエンテーション	ガイダンス	5 月	1.カリキュラムについて 2.楽器を知る
楽器管理	メンテナンス	随時	1.管の調律状況をチェック 2.鍵盤の高さや戻り方をチェック 3.アクセサリー(仕掛け)のチェック 4.空気漏れやノイズのチェック 5.トラブルが起きたときの対処方法
	調律補助	1ドルほか調律時	調律時に助手をおこなう場合の注意点
	オルガン構造研修	時期未定	オルガン内部にて仕組みを知る。
	利用管理	随時	利用記録の残し方
	利用者への説明		オルガニストへの楽器使用(仕様)説明 (日本語、外国語とも)
	調律研修	アニュアル・メンテナンス時	ビルダーによる年次メンテナンス時に保守点検・調律方法を実地研修
広報活動	来場者への説明・デモンストレーション	下半期	一般の方々にむけての楽器紹介(デモンストレーション)
	PR 活動	下半期(夏以降)	新聞雑誌放送など、ホールやオルガンの PR のための取材対応、ブログ執筆
事業の企画運営への参加(予定)	パイプオルガンを弾いてみよう!	8 月初旬実施予定	1.事業内容の把握、演奏・デモンストレーション部分での役割確認 2.オルガン体験の子どもたちの指導 3.オルガン説明・演奏 等
	10 代のためのパイプオルガン・レッスン	時期未定	講師補佐(受講生の自主練習対応等)
事業運営(MC)の実習	MC 研修	時期未定	オルガン事業で必要になる演奏間でのMCや司会についての研修
ホール運営	ホール貸出全般(楽器貸出を含む)	時期未定	ホール運営についてホール職員の説明を受け、公共文化施設の在り方を学ぶ。
出演	心の教育ふれあいコンサート	2023 年 9-10 月開催予定	市内小学生対象 音楽鑑賞公演での神奈川フィルとの共演、オルガン独奏および楽器紹介
	2024 年度 1ドルコンサート	2024 年 5 月(予定)出演	インターンシップ修了演奏会
まとめ	ヒアリング	2024 年 4 月(予定)	
その他	オルガン委員会出席	2024 年 1 月以降	年 1 回開催するオルガン委員会(委員の先生に対し、事業報告および次年度事業の説明を行い、アドバイスを受ける)に出席。

- 研修期間** 2023年5月～2024年4月末日を研修期間とします。  
毎月、5日～10日程度の研修日程となります。
- 募集人員** 2名まで(但し、選考結果により欠員となる場合もございます。)
- 応募資格** ホールオルガニストをめざし、パイプオルガンを専門的に勉強している方。  
年齢、国籍は不問。ただし業務に必要な日本語能力を有すること。
- 待遇** 交通費のみ支給  
※研修1日につき往復2,000円を超過する場合、超過分は自己負担いただきます。  
※毎月ホールが定める研修日数分を支給の上限とし、超過分は自己負担いただきます。  
※研修を経て依頼する業務、依頼演奏については別途報酬を支給します。

## ■**応募方法**

下記を郵送で提出してください。

- ①応募者本人のパイプオルガン演奏による録音(応募資料は返却いたしません)  
※6ヶ月以内に録音したもので通常のCDプレーヤーで再生できるCD、CD-Rのいずれかを使用のこと。  
※J.S.バッハと、ロマン派以降のパイプオルガンのための作品の中からそれぞれ1曲を収録ください  
(2曲の演奏時間合計で15分以内)。録音は雑音などを含まない高品質なものを提出ください。
- ②履歴書(市販の履歴書、写真貼付。e-mailアドレスをお持ちの方は明記のこと。)
- ③音楽に関する経歴書(形式自由。演奏歴、師事歴などを記入すること。)
- ④指導教授など、音楽の専門家による推薦状
- ⑤自己アピール(字数は問いません)

郵送先: 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6  
横浜みなとみらいホール事業企画グループ O.I.P.係  
締切: 2023年4月7日(金) 必着

## ■**選抜方法**

一次・二次ともに、ホールオルガニストおよびホール職員が審査・面談を行います。

- ①一次審査: 書類と音源審査  
・応募書類および音源をもとに審査いたします。
- ②二次審査: 面談 4月15日(土)実施 ※日程の都合がつかない方は応相談  
・一次審査通過者と面談を行い研修生の採用を決定いたします。

## ■**お問い合わせ**

横浜みなとみらいホール事業企画グループ 担当: 新野見・遠藤  
TEL: 045-682-2020 / FAX: 045-682-2023

# ホールオルガニストの紹介

## ■近藤 岳

オルガニスト、作・編曲家。

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学別科オルガン科修了。同大学大学院修士課程音楽研究科(オルガン)修了。2006年文化庁新進芸術家海外研修員としてフランス(パリ)に留学。2004年7月ミュゼ川崎シンフォニーホールのオープン当初から18年3月末までホールオルガニストを務めた。

現在、東京藝術大学非常勤講師(オルガン)、および国立音楽大学非常勤講師(作曲理論)。一社)日本オルガニスト協会会員。2022年4月より横浜みなとみらいホール第2代ホールオルガニストに就任。



Photo:平橋平

## オルガニスト・インターンシップ・プログラム修了者 [2002年度(第1期) ~ 2019年度(第18期)]

これまでに本プログラムを修了し、各方面で活躍しているオルガニストの方々をご紹介します。

<p><b>第1期 浅井 美紀 (あさい みき)</b> 東京藝術大学卒業、同大学院修了。安宅賞、アカンサス音楽賞受賞。これまでに東京藝術大学助手、青山学院高等部講師を歴任。現在、青山学院高等部オルガニスト、水戸芸術館主催「幼児のためのパイプオルガン見学会」オルガニスト。</p>	<p><b>第1期 渋澤 久美 (しぶさわ くみ)</b> フェリス女学院大学音楽学部器楽学科卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。2006年より盛岡市民文化ホールオルガニスト。コンサートの企画やオルガン講座の講師などを担当し、オルガン音楽の普及と発展に努めている。聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂オルガニストも務める。</p>	<p><b>第2期 小島弥寧子 (こじま みねこ)</b> 玉川大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。フェリス女学院大学ディプロマコース修了。国内外で演奏活動を行ない、スペインのオルガン音楽研究をライフワークとする。2020年に初のCD『星月夜』(朝日新聞特選盤、『レコード芸術』準特選盤)をリリース。武蔵野大学非常勤講師。</p>
<p><b>第2期 小高園里子 (こたか えりこ)</b> スイス国立ジュネーヴ音楽院を1等賞及びジュネーヴの町より特別賞を得て卒業。スイス、フランスの国際オルガンコンクールに入選。国内外で演奏活動と教会オルガニストを務める。ヤマハ横浜クラシックオルガン講師。</p>	<p><b>第3期 飯塚 美奈 (いづか みな)</b> 秋田聖霊女子短期大学音楽科、エリザベト音楽大学パイプオルガンコース卒業。その後、スイス・ジュネーヴ音楽院に留学、スイス、フランスを中心にマスタークラスなどに参加し研鑽を積む。</p>	<p><b>第4期 浅尾 直子 (あさお なおこ)</b> 洗足学園音楽大学卒業、エリザベト音楽大学大学院修了。ボストン・ニューイングランド音楽院留学。現在、カトリック田園調布教会オルガニスト、ヤマハミュージックアベニュー銀座アネックスおよびアトリエバロックオルガン教室講師。</p>
<p><b>第4期 飯沼 彩 (いぬま あや)</b> 武蔵野音楽大学、リューベック音楽大学を経て、シュトゥットガルト音楽大学大学院ソリストコースを卒業、ドイツ国家演奏家資格を取得。日本基督教団長原教会オルガニスト。プリンシパル・オルガン教室主宰。</p>	<p><b>第5期 野田 美香 (のだ みか)</b> 武蔵野音楽大学大学院音楽研究科修士課程修了。佐渡裕&amp;シエナ・ウインド・オーケストラによるCD『ディズニー・オン・プラス』にゲストとして参加。現在、昭和音楽大学非常勤講師、トート音楽院渋谷講師、フェリス音楽教室講師。立正佼成会大聖堂オルガニスト。</p>	<p><b>第5期 柳澤 文子 (やなぎさわ あやこ)</b> 東京藝術大学卒業、同大学院修了。スウェーデン国立ピテオ音楽大学ソリスト科修了。2003年度文化庁芸術家在外研修員。スイス・ルツェルン市「0.メシアン・J.S.バッハ国際オルガンコンクール」第1位。日本キリスト教会湘南教会、日本バプテスト同盟霞ヶ丘教会オルガニスト。</p>
<p><b>第6期 石丸 由佳 (いしまる ゆか)</b> 東京藝術大学卒業、同大学院修了。デンマーク王立音楽院、ドイツ国立シュトゥットガルト音楽大学にて国家演奏家資格取得。シャルトル国際オルガンコンクール優勝、併せてJ.アラン賞受賞。主要オーケストラとの共演多数。テレビやラジオへの出演も多い。現在、新潟市民芸術文化会館りゅーとびあ専属オルガニスト。</p>	<p><b>第7期 春日 朋子 (かすが ともこ)</b> 東京藝術大学器楽科オルガン専攻卒業、同大学院修士課程修了。トゥールーズ国立高等音楽院を満場一致の一等賞を得て修了。ソロ、アンサンブル、通奏低音や伴奏などの演奏活動を行いながら、後進の指導にあたる。北陸学院中学・高等学校オルガニスト、金沢長町教会オルガニスト。</p>	<p><b>第8期 北澤 友佳 (きたざわ ゆか)</b> 玉川大学芸術学部パフォーマンス・アーツ学科オルガン専攻卒業。武蔵野音楽大学大学院修士課程修了。フェリス女学院大学ディプロマコース修了。「第26回白川・イタリアオルガン音楽アカデミー」にて白川賞受賞。</p>
<p><b>第9期 小清水桃子 (こしみず ももこ)</b> フェリス女学院大学音楽学部器楽学科オルガン専攻及び同大学院修了。第29回白川イタリアオルガン音楽アカデミーにて白川賞受賞。現在、日本基督教団甲府中央教会オルガニスト、カトリック田園調布教会オルガニスト、フェリス音楽教室オルガン科講師。</p>	<p><b>第10期 岡本 玲子 (おかもと れいこ)</b> 武蔵野音楽大学大学院、フェリス女学院大学ディプロマコース修了。ボストンのアンドルーヴァー・クライストチャーチにてアシスタント・オルガニスト、オールド・ウエスト教会にてオルガニストを務める。現在、市川聖マリヤ教会オルガニスト。</p>	<p><b>第11期 龍田優美子 (たつた ゆみこ)</b> 東京藝術大学にて学士号・修士号を取得。ドイツ政府奨学生(DAAD)としてシュトゥットガルト演劇音楽大学へ留学。インディアナ大学ジェイコブス音楽院にて女性として初の博士号取得。平成29年度文化庁新進芸術家海外派遣員・日米交換芸術家。2022年4月より活水女子大学専任講師。</p>
<p><b>第12期 富田 真希 (とみた まき)</b> 神戸松蔭女子学院大学教会音楽コース修了後、東京藝術大学卒業、同大学院修了。2011年フランス・ドイツ・ルクセンブルクの国境なき国際オルガンコンクール入賞。現在、煥乎堂ヤマハ音楽教室オルガン講師、日本基督教団桜新町教会オルガニスト。</p>	<p><b>第13期 上平 未奈 (うえひら みな)</b> 都立芸術高等学校音楽科ピアノ専攻卒業。フェリス女学院大学音楽学部オルガン科卒業。2008年、白川イタリアオルガン音楽アカデミーにてゲラルデスキ賞受賞、2009年、ウィレム・ヘルマン国際オルガンコンクール第3位。現在、北星学園大学オルガニスト。</p>	<p><b>第14期 大山 智子 (おおやま ともこ)</b> 甲南女子大学文学部、相愛大学オルガン専攻及び音楽専攻科修了。ドイツ政府給費留学生としてDAAD奨学金を得て、ドイツ国立シュトゥットガルト芸術大学オルガン科及び古楽科にてディプロムと修士号を取得。</p>

<p><b>第15期</b> 石川=マンジヨル優歌 (いしかわ=マンジヨル ゆか)</p> <p>東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン科卒業、同大学院修士課程修了。フランス・トゥールーズ音楽院オルガン科 Perfectionnement 課程修了。2018年ピエール・ド・マンシクール国際オルガンコンクール セミファイナリスト。2022年8月までトゥールーズにてクロワ・ドロード教会主任オルガニスト、音楽学校「ア・テンポ」講師。</p>	<p><b>第16期</b> 澤 菜摘 (さわ なつみ)</p> <p>洗足学園音楽大学オルガン専攻首席卒業、同大学専攻科卒業。2018年からフランスのリヨン国立高等音楽院でF. エスピナス、L. シュルンベルガー両氏に師事。近年、即興演奏家としても活動を広げている。2022年、同音楽院修士課程に進学予定。</p>	<p><b>第17期</b> 山司恵莉子 (やまじ えりこ)</p> <p>東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。同大学院修士課程修了。大学院アカンサス音楽賞受賞。大学院在学中にトゥールーズ音楽院に留学し、オルガン科、チェンバロ科 (DEM 取得)、古楽科を修了。公益財団法人青山音楽財団奨学生。トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム第10期派遣留学生。日本基督教団仙台東一丁町教会オルガニスト。</p>
---	--	---

## 前期(第18期)修了者からのメッセージ



Photo:藤本史昭

### 三上 郁代 (みかみ いくよ)

プログラムでは楽器に関わる事柄はもちろんのこと、オルガン事業に関わることにより、演奏以外の部分でオルガンの魅力を伝えること等を経験し、視野を広げる機会となります。また皆さんに愛される楽器“ルーシー”に触れることにより、新しい刺激を受けました。オルガニストの先生をはじめとするホールの皆様のあたたかな雰囲気の中、沢山の経験を積むことのできる研修となっています。

#### プロフィール

東京藝術大学オルガン専攻卒業、同大学院修士課程修了。渡仏しトゥールーズ及びカン地方音楽院で学びオルガン、チェンバロ、通奏低音のディプロマ取得。M. タリヴェルディエフ国際オルガンコンクールにて、第一位とタリヴェルディエフ作品最優秀演奏特別賞を同時受賞。A. マルシャル国際オルガンコンクール優勝。2018年度上期野村財団奨学生。

### 東方 理紗 (とうほう りさ)

インターンシップ・プログラムでは、横浜みなとみらいホールの多彩なオルガン“ルーシー”に触れること、そしてオルガンや演奏会に関わる多くのことを学ぶことができます。様々なイベントや研修に参加することで、オルガン演奏のみならず、オルガニストとしての貴重な経験を積むことのできるプログラムです。

#### プロフィール

東京藝術大学オルガン専攻卒業。同大学院在籍。安宅賞、宮田亮平奨学金、アカンサス音楽賞受賞。2022年マリア・ホーファー国際オルガンコンクール第2位。現在、明治安田クオリティオブライフ文化財団 海外音楽研修生としてフライブルク音楽大学に在籍。



Photo:藤本史昭

# 横浜みなとみらいホール

## ホール概要

横浜みなとみらいホールは1998年の開館以来、横浜市民はもちろんのこと、首都圏・全国各地のお客さまにご来場いただいております。また、国内外のアーティストからも日本を代表するコンサートホールの一つとして親しまれています。創造都市、横浜・みなとみらいのコンサートホールとして、新しい音楽を発信し続けると共に、皆さまに愛されるホールを目指していきます。

### 施設概要

#### <大ホール>

客席 囲み型シューボックス型 [残響時間 2.1 秒 (満席時)]  
面積 1944m<sup>2</sup> (縦 54m、横 35m、高さ 20m)  
客席数 2,020 席 他に車椅子スペース 14 席



大ホール ©平舘平

#### <小ホール>

客席 シューボックス型 [残響時間 1.6 秒 (満席時)]  
面積 425m<sup>2</sup> (縦 23m、横 17m、高さ 11.4m)  
客席数 440 席 他に車椅子スペース 2 席



小ホール ©平舘平

#### <その他>

リハーサル室 212m<sup>2</sup>  
レセプションルーム 176m<sup>2</sup>  
音楽練習室 6室 23m<sup>2</sup>~39m<sup>2</sup>

名称	横浜みなとみらいホール
所在地	〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 2-3-6
竣工	1997年6月
開館	1998年2月1日(小ホール) 1998年5月31日(大ホール)
指定管理者	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団



外観 ©平舘平

## パイプオルガン“Lucy(ルーシー)” 概要



©平舘平

大ホール舞台正面に設置されているパイプオルガンは、アメリカの C. B. フィスク社製。ホンジュラス・マホガニー製のケースには、横浜にちなんだカモメの彫刻が施されています。輝くような明るい音色にふさわしく、「光」を意味するラテン語“lux”に由来する”ルーシー”という愛称で親しまれる、横浜みなとみらいホールのシンボルです。この楽器は、現代のコンサートホールにおけるオルガンの理想を追求して設計されているため、バツハ以前の時代から現代に至る多種多様なオルガン曲を、それぞれにふさわしい音色で演奏することができます。また、建設計画のごく初期の段階からオルガンを響かせることに配慮して建築設計が進められてきただけに、ホール全体が一つの楽器のように共鳴し、客席ではあたかもオルガンの音色に包まれているように感じられます。



©平舘平

パイプは全部で 4,632 本。正面に見えているパイプのほか、奥行き 3.6m の 4 層になった内部に、材質も形も大きさも様々なパイプがびっしり並んでいます。木のパイプはポプラ材、金属のパイプは鉛と錫(すず)の合金です。音色を選ぶストップは 62 個。その他にも実物が組み込まれている「チェレスタ」や、鈴を組み合わせた「ツィンベルシュテルン」、鳥の鳴き声に似た「ナイチンゲール」といった音色も備わっています。また、音色の組み合わせ(レジストレーション)を記憶するコンピュータのメモリーが内蔵されています。

- ◇外形寸法 高さ 11.22m×幅 12m×奥行き 3.6m
- ◇パイプ本数 4,632 本
- ◇ストップ数 62 ストップ+チェレスタ、ナイチンゲール、ツィンベルシュテルン
- ◇鍵盤数 第 1～第 3 手鍵盤:各 61 鍵、ペダル:32 鍵
- ◇調律法 平均律

### C. B. フィスク社

アメリカにおける現代オルガン建造のパイオニア。1961 年、チャールズ・ブレントン・フィスクによって、ボストン近郊のグロースターで設立された。全米各地の教会や音楽大学、コンサートホールは元より、国外でもスイス、日本で優れた実績を持つ。

横浜みなとみらいホールのオルガン Op.110 は、第 3 代社長スティーヴン・ディーク氏を中心としたチームの手で 1991 年に設計が開始され、ホールに設置した後 1 年あまりに及ぶ整音作業を含め、7 年の歳月を経て完成した。